

例年当事務所が実施している新任職員を対象とした実地研修の一環として、リッチモンド・ロンドン特別区（以下、「リッチモンド」という。）を訪問した。

リッチモンドはロンドン中心部から南西部に位置し、公園や広場が多く大変緑豊かな地域である。人口は 191 千人で増加傾向にあり、人口に対する就業率は他地域と比べ高く、ロンドン特別区の中では比較的裕福な地域である。今回は、5つの分野（オリンピック関係、公園事業、子育て支援、都市開発及び社会福祉）について各担当者から話を聞くことができた。

<2012年オリンピック>

- 2012年のロンドンオリンピックでは自転車のロードレースのメイン会場。
- スタジアムと違って公道で行われる競技であったため、安全に遂行することが重要な使命だった。選手、関係者が競技に集中できる環境を作り、競技前後における観客の誘導を、いくつかのイベントを通じて成功することができた。
- 2015年にはラグビーのワールドカップが本地域のスタジアムで行われるため、オリンピックの経験を生かし、大会の成功を目指している。



講義の様子

<子育て支援に関する取組み>

- 子育て支援に関する取組みとして、「AFC (Achieving for children)」という独立した組織を設置した。出資はカウンスルであり、本事業については隣地区のキングストン・ロンドン特別区も共有している。※キングストン・ロンドン特別区はリッチモンドと背景が類似しているため、人事や法的サービスについても共有している。
- 本組織は行政機関とは独立した組織であるが、市の職員との交流はある。取組み内容として、子供に対するケアだけでなく、教育現場（学校）へのサポート、親に対するケアも行う。
- この事業については、他地区へも広げていきたい考えがある。

<公園整備に関する取組み>

- 公園や広場が健康で豊かな生活を促進するための場所であると考え、質の高い公園整備を心掛けている。2005-2010年は公園の改良や遊び場の改装を行い、2010-2017年は公園の利用環境をよりよくするため、カフェやWifiの整備などを行っている。
- 公園にかかわるサービス（清掃、イベント、スポーツなど）受託事業者を、4年ごとに見直す新たな仕組みも構築した。



庁舎前の公園の様子

<ソーシャルケアに対する取組み>

- 社会福祉への理念として、誰もが必要なケアを受けることができ、できる限り質の高い生活ができるよう支援することである。
- 支援を求める人には最初のコンタクトが重要で、情報提供や助言、直接的なサービス（食事、備品の提供）などを行うことで、長期ケア（入院）につながらないように努めている。
- ケアからの復帰への取組として、できるだけ公なケア利用を遅らせ、一般的なコミュニティサポートを多く利用することで、以前よりも自立を促し、社会福祉に係る費用も削減することができた。
- 個人の能力や一般的なサポートを重要視しているが、個人の予算に合わせたケア計画支援も行う。

<中心市街地の都市開発の視察>

1980 年から 100 億円をかけた住宅街のオープンスペース、商店街の景観改善、学校整備に取り組んでいる。

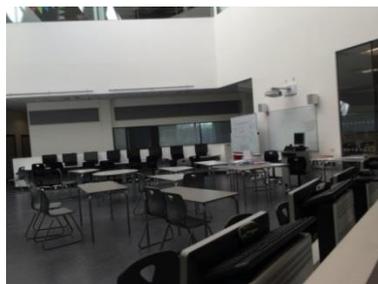
○Hampton Square (住宅地にある空き地を遊具のある公園にし、スーパーも隣接するなど住民が利用しやすい環境にした。)



○Existing school (学校以外でスポーツなどに取り組める。視察時はサマーホリデー中で、日中に子供を預かってスポーツを教えるクラブ活動のようなものが開催されていた。)



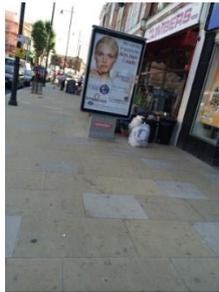
○New Academy (公立のセカンダリースクールで、北欧の教育スタイルを取り入れた新しい学校)



○ Britannia Lane Youth Zone (地域のデイケアセンターを利用しやすいよう改修)



○ Whitton High Street (商店前歩道の整備など)



○ Cypress Avenue Pocket Park (公共住宅内のオープンスペースを改善)



○ Whitton Library (図書館周辺の小スペースを改修)



<そのほか>



市長との面会



記念撮影



市長の執務室



昼食の様子



アテンドしてくれた若手職員の方々